

科目名 【英】	外国語② 【中国語】 Foreign Language			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単位	1
学年	2年	学期	2学期	曜日	水曜日	時限	1限

担当教員	栩野 雅子	実務者経験	1993年～ 通訳・翻訳業務 2007年～ 各種学校で中国語担当
------	-------	-------	-------------------------------------

学習内容	中国、中国語に関する基礎知識と 基本的な会話表現を学ぶ
到達目標	中国、中国語に関心を持ち、基礎的な知識を習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	Jリサーチ出版『旅行中国語会話』、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	本試験 50% 平常点30% 出席点 20%
------	------------------------

授業計画【内容・目標】		
1	中国語の基礎知識	授業の進め方 中国、中国に関する基礎知識 簡単な挨拶と自分の名前が言える
2	発音、数字	声調の練習 基本単語の発音練習 100までの数が言える
3	基本フレーズ (1)	教科書の基本フレーズの練習 教科書の基本フレーズが言える
4	基本フレーズ (2)	教科書の基本フレーズの練習 教科書の基本フレーズが言える
5	基本フレーズ (3)	教科書の基本フレーズの練習 教科書の基本フレーズが言える
6	場面別会話 (1)	場面別会話に必要なフレーズの練習 「場面別会話編」の基本フレーズが言える
7	場面別会話 (2)	場面別会話に必要なフレーズの練習 「場面別会話編」の基本フレーズが言える
8	場面別会話 (3)	場面別会話に必要なフレーズの練習 「場面別会話編」の基本フレーズが言える
9	総仕上げ	既習表現を使って発表する
10	復習	発音、基本フレーズなどを復習し、定着させる
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説 授業の総括

科目名 【英】	解剖生理学 Anatomy and Physiology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単位	4
学年	2年	学期	通年	曜日	1学期：火曜日 2学期：月曜日 3学期：金曜日	時限	1学期：2限 2,3学期：1限

1学期 担当教員	松本 栞	1学期 実務者経験	2013年3月～2014年9月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸治療を担当
2学期 担当教員	孫 杰	2学期実務者 経験	
3学期 担当教員	杉本 公一郎	3学期 実務者経験	2009年～2015年 医療法人恵登久会 越川病院にて リハビリテーション室 室長として勤務。 2016年 すずもと鍼灸整骨院を開設し現在に至る。

学習内容	一年時に学んだ解剖学と生理学を紐付けすることで、改めて一つの学問として学ぶ。
到達目標	解剖学と生理学の両分野を統合した医学知識を体系的に説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	一年時の解剖学、生理学を復習しておく。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参し受講することが望ましい。

成績評価	期末試験による100%評価
------	---------------

1学期 授業計画【内容・目標】	
1 循環 1	【血液総論】血液の組成・造血 解剖生理学の基礎をふまえながら総合的に理解し説明することができる。
2 循環 2	【心臓血管系】心臓の解剖・心周期 解剖生理学の基礎をふまえながら総合的に理解し説明することができる。
3 循環 3	【血液循環】血管の分類・走行・静脈還流 解剖生理学の基礎をふまえながら循環の全体像を総合的に理解し説明することができる。
4 循環 4	【循環調節】心拍数・血圧・調節の仕組み 解剖生理学の基礎をふまえながら総合的に理解し説明することができる。
5 消化器 1	【消化器概論】消化器系とは何か、消化管壁の構造 消化器系の全体像を理解し、構造と機能を総合的に理解し、説明することができる。
6 消化器 2	【口腔・胃】構造と機能 それぞれの構造と機能の違いを理解し、説明することができる。
7 消化器 3	【小腸・大腸】構造と機能 それぞれの構造と機能の違いを理解し、説明することができる。
8 消化器 4	【膵臓・肝臓】構造と機能 それぞれの構造と機能の違いを理解し、説明することができる。
9 生殖器 1	【生殖概論・男性生殖器】構造と機能 構造と機能を理解し、説明することができる。
10 生殖器 2	【女性生殖器】構造と機能、性周期 構造と機能を理解し、性周期と合わせて説明することができる。
11 試験	1学期末試験
12 試験振り返り	試験を振り返り、国家試験に必要なポイントをおさえることができる。

2学期 授業計画【内容・目標】		
1	呼吸器系①	呼吸器 〔解剖生理〕
2	呼吸器系②	呼吸器 〔解剖生理〕
3	呼吸器系③	呼吸器 〔解剖生理〕
4	消化器系①	消化器 〔解剖生理〕
5	消化器系②	消化器 〔解剖生理〕
6	消化器系③	消化器 〔解剖生理〕
7	泌尿器系①	泌尿器 〔解剖生理〕
8	泌尿器系②	泌尿器 〔解剖生理〕
9	体温①	体温 〔解剖生理〕
10	体温②	体温 〔解剖生理〕
11	試験	
12	まとめ	

3学期 授業計画【内容・目標】		
1	神経の機能と構造	神経の機能や構造、活動電位、興奮伝導や伝達について学び、それらを説明できるようになる。
2	中枢神経について①	大脳と間脳について学び、それらを説明できるようになる。
3	中枢神経について②	脳幹と脊髄について学び、それらを説明できるようになる。
4	末梢神経について①	脳神経について学び、それらを説明できるようになる。
5	末梢神経について②	脊髄神経について学び、それらを説明できるようになる。
6	自律神経について①	交感神経と副交感神経について学び、それらを説明できるようになる。
7	自律神経について②	自律神経の中枢と関連する反射を含めて学び、それらを説明できるようになる。
8	運動	運動の伝導路について学び、それらを説明できるようになる。
9	感覚	感覚の伝導路について学び、それらを説明できるようになる。
10	特殊感覚①	味覚、嗅覚、聴覚、平衡感覚について学び、それらを説明できるようになる。
11	試験	試験
12	特殊感覚②	視覚について学び、それらを説明できるようになる。

科目名 【英】	病理学概論 Outline of Pathology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単位	3
学年	2年	学期	2.3学期	曜日	月曜日	時限	2限

担当教員	河口 直正	実務者経験	平成2年 大阪大学医療技術短期大学部助手 平成5年 大阪大学医学部保健学科助手～講師 平成15年 ドイツ、エッセン大学病院病理学研究所文科省長期在外研究員 平成19年 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻講師～准教授 平成29年 大阪大学大学院医学系研究科医学専攻准教授 平成31年 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻招聘教授 平成31年 森ノ宮医療大学大学院教授	平
------	-------	-------	---	---

学習内容	病理学は「病の理（ことわり）」であり、どのようにして病気がおこるかを形態学的手法を用いて研究する学問である。形態学のみならず、生理学、生化学などの総合的な知識を用いて病気のおこるメカニズムについて講義する。
到達目標	病気の成り立ちを十分に理解し、その知識を将来臨床の場で生かせるようにする。

準備学習 時間外学習	各々の講義項目は関連しており講義毎に復習をし、その復習による知識をふまえて次回の講義の予習を行う。
使用教材	医歯薬出版 病理学概論第2版
留意点 備考	なし

成績評価	期末試験で評価
------	---------

2学期 授業計画【内容・目標】		
1	病理学とは、 細胞傷害①	細胞障害と適応—肥大、過形成、化生、萎縮 細胞の適応について理解でき、適応の種類を説明できる。
2	細胞傷害②	壊死（凝固壊死、融解壊死、壊疽） 細胞死について説明できる。
3	細胞傷害③	壊死（類線維素壊死、脂肪壊死）、アポトーシス 壊死とアポトーシスの相違を説明できる。
4	代謝障害	変性、尿酸代謝障害、カルシウム代謝障害、色素代謝障害、鉄代謝障害、糖代謝障害、老化 細胞・組織の変性と代謝障害を理解できる。細胞の老化について説明できる。
5	炎症①	急性炎症、慢性炎症 急性炎症と慢性炎症の病理学的（形態学的）特徴を説明できる。
6	炎症②	炎症の転帰、炎症の種類 炎症の転帰と炎症の種類を説明できる。
7	組織の再生と修復	創傷治癒、異物の処理 組織の修復について細胞傷害と炎症との関連が理解できる。異物に対する生体の反応機序を説明できる。
8	循環障害①	組織・リンパ液の循環障害（浮腫）、充血とうっ血、出血 浮腫の原因を病理学的に説明できる。充血とうっ血の相違を理解できる。出血の種類を説明できる。
9	循環障害②	血栓症、塞栓症 血栓形成因子を理解できる。血栓の種類、転帰を説明できる。塞栓の源と閉塞する血管を説明できる。
10	循環障害③	梗塞、循環ショック、高血圧症 塞栓の種類を説明できる。循環ショックの種類を説明できる。高血圧症の分類を説明でき、高血圧症の合併症も説明できる。
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説、授業の総括

3学期 授業計画【内容・目標】		
1	免疫異常①	免疫の仕組み；自然免疫と獲得免疫（液性免疫、細胞性免疫）、免疫の仕組みが理解できる。
2	免疫異常②	免疫系細胞、抗体、メディエータ 免疫に関わる細胞、分子、メディエータを説明できる。
3	免疫異常③	過敏症（即時型（Ⅰ型）過敏症・細胞傷害型（Ⅱ型）過敏症、過敏症（免疫複合型（Ⅲ型）過敏症・遅延型（Ⅳ型）過敏症、原発性免疫異常・後天性免疫異常 各型の過敏症の機序を理解し説明できる。免疫不全症の機序を理解し説明できる。
4	感染症	新興感染症と再興感染症、感染症と起炎微生物 感染症の発生機序と起炎微生物について説明できる。
5	腫瘍①	腫瘍とは、腫瘍の分類、良性腫瘍と悪性腫瘍 腫瘍の定義と分類が説明できる。良性腫瘍と悪性腫瘍の相違が説明できる。
6	腫瘍②	良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴（分化度と退形成・増殖速・局所浸潤・転移度） 良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴を説明できる。
7	腫瘍③	癌の病期、早期癌と進行癌、腫瘍の発生病理、癌の疫学、発癌性物質 癌の病期を説明できる。腫瘍の発生機序を理解し説明できる。
8	先天異常①	遺伝性疾患；メンデルの法則に従う疾患 メンデルの法則に従う遺伝性疾患の遺伝形式を理解し説明できる。
9	先天異常②	遺伝性疾患；細胞遺伝学的疾患、奇形 染色体異常症の発生原因を説明できる。奇形の種類、発生原因を説明できる。
10	栄養および環境による疾患	環境要因および栄養障害による疾患 環境要因および栄養障害による疾患を説明できる。
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説、授業の総括

科目名 【英】	臨床医学総論① Clinical Medicine in General			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単位	4
学年	2	学期	通年	曜日	1学期 金曜日 2学期 金曜日 3学期 火曜日	時限	1学期 2限目 2学期 1限目 3学期 1限目

担当教員	真田 浩二	実務者経験	2000年4月～2002年3月 鍼灸院に所属 往診および鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	-------	-------	---

学習内容	現代医学的な観点からの診察学〔検査法・主な症状の診察法など〕・治療学・臨床心理学を学ぶ。 鍼灸師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	症候から現代医学的な観点で鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、 かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学各論との関連を復習する。
使用教材	配布プリント「臨床医学総論」
留意点 備考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	各学期に約5回小テスト実施。期末試験80%+小テスト20%で評価。再試験は試験100%、小テストは含まない。
------	--

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	導入	基礎医学と臨床医学。臨床医学総論と各論。授業の進め方と試験・評価。
2	診断学概要	診察の意義 診療のプロセス 診察の概要 診察の方法 身体診察【身体診察の進め方 身体診察の方法 生命徴候】
3	診断学 全身状態の診察1	顔貌の診察と関連疾患【先端巨大症・下垂体腺腫・副腎皮質の疾患1】
4	診断学 3	顔貌の診察と関連疾患【副腎皮質の疾患2】
5	診断学 4	顔貌の診察と関連疾患【甲状腺の疾患】
6	診断学 5	顔貌の診察と関連疾患【破傷風・パーキンソン病1】
7	診断学 6	顔貌の診察と関連疾患【パーキンソン病2】 精神状態の診察と関連疾患【意識状態・感情・協調性・見当識・知能】
8	診断学 7	精神状態の診察と関連疾患【アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症・レビー小体型認知症】
9	診断学 8	精神状態の診察と関連疾患【ピック病・進行性核上性麻痺・球麻痺・梅毒1】
10	診断学 9	精神状態の診察と関連疾患【梅毒2】
11	試験	1学期試験
12	試験振り返り 診断学10	精神状態の診察と関連疾患【クロイツフェルトヤコブ病】 体格の診察と関連疾患 巨人症【マルファン症候群・大動脈瘤】

2学期 授業計画【内容・目標】		
1	診断学11	体格の診察と関連疾患 巨人症【大動脈解離・ホルネル症候群・反回神経麻痺】
2	診断学12	体格の診察と関連疾患 巨人症【心臓弁膜症】
3	診断学13	体格の診察と関連疾患 巨人症【心不全・リウマチ熱・心房細動】
4	診断学14	体格の診察と関連疾患 巨人症【大動脈解離・ホルネル症候群・反回神経麻痺】
5	診断学15	体格の診察と関連疾患 巨人症【心臓弁膜症】
6	診断学16	体格の診察と関連疾患 巨人症【心不全・リウマチ熱・心房細動】
7	診断学17	体格の診察と関連疾患 巨人症【動脈硬化症・大動脈炎症候群】 体格の診察と関連疾患 小人症【下垂体機能低下症】
8	診断学18	体格の診察と関連疾患 小人症【ターナー症候群・軟骨無形成症・くる病/骨軟化症】
9	診断学19	栄養状態の診察と関連疾患 肥満【インスリノーマ・クラインフェルター症候群】 栄養状態の診察と関連疾患 るいそう・やせ
10	診断学20	栄養状態の診察と関連疾患 るいそう・やせ【甲状腺ホルモン過剰・アジソン病】
11	試験	2学期試験
12	試験振り返り 診断学21	栄養状態の診察と関連疾患 るいそう・やせ【褐色細胞腫】

3学期 授業計画【内容・目標】		
1	診断学22	体位/姿勢の診察と関連疾患【気管支喘息】
2	診断学23	体位/姿勢の診察と関連疾患【髄膜炎・頭蓋内圧亢進】
3	診断学24	体位/姿勢の診察と関連疾患【髄膜刺激症状】 歩行の診察と関連疾患【パージャヤー病・閉塞性動脈硬化症】
4	診断学25	歩行の診察と関連疾患【下垂足/尖足・筋ジストロフィー】
5	診断学26	歩行の診察と関連疾患【多発性筋炎/皮膚筋炎・膠原病】
6	診断学27	歩行の診察と関連疾患【重症筋無力症・発育性股関節形成不全】
7	診断学28	歩行の診察と関連疾患【レイノー現象・運動失調1】
8	診断学29	歩行の診察と関連疾患【運動失調2・脊髄小脳変性症・多発性硬化症】
9	診断学30	言語の診察と関連疾患【失声症・構音障害・失語症】
10	診断学31	皮膚・粘膜・皮下組織の診察と関連疾患【貧血・ショック】
11	試験	3学期試験
12	試験振り返り 診断学32	皮膚・粘膜・皮下組織の診察と関連疾患【敗血症・チアノーゼ・ファロー四徴症】

科目名 【英】	臨床医学各論① Clinical Medicine Part			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	2年	学 期	通年	曜 日	1学期：水曜日 2学期：木曜日 3学期：月曜日	時 限	1学期：2限 2学期：3限 3学期：1限

1学期 担当教員	山口 隆平	1学期 実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成16年4月～平成17年10月）
2学期 担当教員	藤田 和樹	2学期 実務者経験	2012年～2015年 整骨院勤務 治療補助など担当 2009年～高校ラグビー部トレーナー帯同 AT業務全般担当 2015年～教員 講義など担当
3学期 担当教員	孫 杰	3学期 実務者経験	

学習内容	現代医学的な観点からの臨床医学を学ぶ。各疾患の概念・疫学・病因・病態生理・症状・診断・治療などをそれぞれ理解する。
到達目標	臨床の場において、実際に活用できるレベルかつ国家試験に対応できるレベルまでを学ぶことを目標とする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】臨床医学各論、配布資料
留意点 備 考	

成績評価	定期試験70%＋小テスト30%
------	-----------------

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	感染症	総論 細菌感染症【猩紅熱・百日咳・ジフテリア・破傷風】
2	感染症	細菌感染症【ブドウ球菌感染症・細菌性食中毒・細菌性赤痢・コレラ・腸チフス・パラチフス】
3	感染症	ウイルス感染症【インフルエンザ・麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎】
4	感染症	性感染症【梅毒・淋病・性器クラミジア感染症・エイズ】
5	肝胆膵疾患	肝疾患【急性肝炎・慢性肝炎】
6	肝胆膵疾患	肝疾患【肝硬変・肝がん】
7	肝胆膵疾患	胆道疾患【胆石・胆嚢癌・黄疸】
8	肝胆膵疾患	膵疾患【急性膵炎・慢性膵炎・膵癌】
9	その他の領域①	婦人科疾患【子宮頸癌・子宮体癌・乳癌・更年期障害・月経異常】
10	その他の領域②	眼科疾患【結膜炎・角膜炎・麦粒腫・白内障・緑内障・眼精疲労】
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説とまとめ



2学期 授業計画【内容・目標】		
1	整形外科疾患①	総論〔保存的治療と手術的治療・画像診断〕 関節疾患〔関節炎・関節の可動域の異常・五十肩〕
2	整形外科疾患②	関節疾患〔変形性関節症〕筋・腱疾患〔筋肉炎・筋膜炎・腱鞘炎〕
3	整形外科疾患③	骨代謝性疾患・骨腫瘍 〔骨粗しょう症・くる病・骨軟化症・骨腫瘍〕 形態異常〔先天性股関節脱臼・斜頸・側彎症・外反母趾・内反足〕
4	整形外科疾患④	脊椎疾患〔椎間板ヘルニア・後縦靭帯骨化症・脊椎分離症・脊椎すべり症〕
5	整形外科疾患⑤	脊椎疾患〔頸部変形性脊椎症・腰部変形性脊椎症・ 頸部脊柱管狭窄症・腰部脊柱管狭窄症〕
6	整形外科疾患⑥	脊椎疾患〔腰痛症・頸椎捻挫・むちうち損傷〕 脊髄損傷〔脊髄損傷〕
7	整形外科疾患⑦	外傷〔骨折・脱臼〕
8	整形外科疾患⑧	外傷〔捻挫・スポーツ外傷障害〕
9	整形外科疾患⑨	その他の整形外科疾患〔胸郭出口症候群・頸腕症候群 頸肩腕症候群・ガングリオン・手根管症候群〕
10	整形外科疾患⑩	末梢神経性疾患〔圧迫性および絞扼性ニューロパシー〕
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説とまとめ

3学期 授業計画【内容・目標】		
1	腎・尿器疾患①	原発性糸球体腎炎〔急性糸球体腎炎・慢性糸球体腎炎・ネフローゼ症候群〕
2	腎・尿器疾患②	腎不全〔急性腎不全・慢性腎不全・腎硬化症〕
3	腎・尿器疾患③	感染症〔腎盂腎炎・膀胱炎・尿道炎〕
4	腎・尿器疾患④	腫瘍性疾患〔腎腫瘍・膀胱癌〕結石症〔腎・尿管結石症〕 前立腺疾患〔前立腺肥大・前立腺癌〕
5	神経疾患①	筋疾患〔進行性筋ジストロフィ〕
6	神経疾患②	運動ニューロン疾患〔筋萎縮性側索硬化症〕
7	神経疾患③	末梢神経性疾患〔ギランバレー症候群〕
8	神経疾患④	末梢神経性疾患〔ベル麻痺・ハント症候群〕
9	神経疾患⑤	神経痛〔三叉神経痛・肋間神経痛・坐骨神経痛・後頭神経痛〕 機能性疾患〔頭痛〕
10	復習	3学期の復習
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説とまとめ

科目名 【英】	臨床医学各論②			必修/選択	必須	授業形式	講義
				総時間数	24	単位	1
学年	2	学期	3学期	曜日	木曜日	時限	3限

担当教員	藤原 法香	実務者経験	2017年4月～2018年10月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸整骨院にて鍼灸施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	各内分泌腺において起こる病気について学ぶ。 各代謝・栄養疾患について学ぶ。
到達目標	内分泌系、代謝・栄養疾患の説明ができる。 はり師きゅう師の国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	生理学と関連させながら復習する。
使用教材	教科書『臨床医学各論』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備考	副教材として、生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	各疾患について小テストを実施。小テスト30点満点に換算し、定期テスト70点満点に加算し評価する。
------	--

授業計画【内容・目標】		
1	内分泌1	内分泌器官のフィードバック機構について説明ができる。
2	内分泌2	内分泌【下垂体疾患】 クッシング病、先端巨大症・巨人症について説明ができる。
3	内分泌3	内分泌【下垂体疾患】 下垂体性低身長症、尿崩症について説明ができる。
4	内分泌4	内分泌【甲状腺疾患】 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、慢性甲状腺炎について説明できる。
5	内分泌5	内分泌【副腎疾患】 副腎皮質機能亢進症、原発性アルドステロン症について説明ができる。
6	内分泌6	内分泌【副腎疾患】 副腎皮質機能低下症、褐色細胞腫について説明ができる。
7	代謝1	代謝【糖代謝異常】 糖尿病について説明ができる。
8	代謝2	代謝【脂質代謝異常】 高脂血症・脂質異常症、肥満症、るいそうについて説明ができる。
9	代謝3	代謝【尿酸代謝異常】 高尿酸血症、痛風について説明ができる。
10	代謝4	代謝【その他】 ビタミン欠乏症・過剰症、骨軟化症について説明ができる。
11	試験	試験
12	まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

科目名 【英】	リハビリテーション医学① Rehabilitation Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単位	1
学年	2年	学期	3学期	曜日	水曜日	時限	2限

担当教員	中山 伸治	実務者経験	大学病院、リハビリテーション専門病院にて急性期から慢性期の理学療法をおこない、整形外科的疾患・スポーツ障害の理学療法を専門とする
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学における基礎を学ぶ。
到達目標	リハビリテーション医学で最も大切である、障害学と運動学の基礎を習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】リハビリテーション医学
留意点 備考	

成績評価	本試験100%
------	---------

3学期 授業計画【内容・目標】		
1	リハビリテーション医学の概要①	リハビリテーション医学とは？ 障害の捉え方
2	リハビリテーション医学の概要②	小児、成人、老人の障害の特徴 リハビリテーションの流れについて
3	リハビリテーション医学の概要③	身体、機能、活動、参加の制限に関する評価
4	リハビリテーション医学の概要④	運動麻痺の評価 PTの基本的技術（ROM 筋力）
5	リハビリテーション医学の概要⑤	PTの基本的技術（ADL、物理療法）
6	リハビリテーション医学の概要⑥	OT、STとは？ リハビリテーション看護
7	運動の仕組み①	姿勢と異常姿勢について
8	運動の仕組み②	姿勢反射と随意運動について
9	運動の仕組み③	脊柱の機能について
10	運動の仕組み④	肩甲帯と肩の機能について
11	試験	試験
12	テストの解説・解答	

科目名 【英】	衛生学・公衆衛生学② (hygiene・public health)			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	18	単位	1
学年	2	学期	1	曜日	月曜日	時限	1

担当教員	篠塚 知恵子	実務者経験	2015年7月～2016年3月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	--------	-------	--

学習内容	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、老人、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。
到達目標	わが国の社会情勢および保健統計についてその現状を理解し、また医療従事者として必要な衛生環境を理解し実践できる水準に達すること。かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達すること。

準備学習 時間外学習	講義後、講義で得た要点を『衛生学・公衆衛生学第2版』にて復習する。
使用教材	『衛生学・公衆衛生学第2版』 鈴木庄亮、公益社団法人東洋療法学校協会 編集（医歯薬出版） 『ライフスタイルと健康』 森本曩 著（医学書院） 『国民衛生の動向』（厚生統計協会）
留意点 備考	講義中、まとめとしてははり師きゅう師国家試験で過去に出題された問題に触れる。

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画【内容・目標】		
1	第8章 成人・高齢者 保健	【到達目標】高齢者保健の現状と問題点について理解する。 介護保険の対象者について説明できる。
2	第9章 感染症とその 対策	【到達目標】感染症の3要因、感染源・感染経路・感受性の宿主の種類を理解する。 感染症新法に基づく分類1類～3類まで説明できる。
3	第9章 感染症とその 対策	【到達目標】感染症の3要因、感染源・感染経路・感受性の宿主の種類を理解する。 感染症新法に基づく分類1類～3類まで説明できる。
4	第10章 消毒法	【到達目標】消毒法の種類・方法・対象物について説明できる。
5	第10章 消毒法	【到達目標】消毒法の種類・方法・対象物について説明できる。医療従事者として必要な衛生環境の知識構築をし、実践できる。
6	第11章 疫学	【到達目標】疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。
7	第11章 疫学	【到達目標】疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。 【グループワーク】実験疫学、分析疫学のうち提示された研究デザインに対して、リサーチクエスションの設定、簡便的に各デザインを組み立てる。
8	第11章 疫学	【到達目標】疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。 【グループワーク】各グループで発表を行い、提示されたデザインから逸脱していないか評価を行う。
9	第12章 保健統計	【到達目標】我が国の衛生統計に関するげんじょうと変化・公衆衛生の問題点について理解する。 人口動態の5事象、平均余命とはなにか説明できる。
10	第12章 保健統計	【到達目標】我が国の衛生統計に関するげんじょうと変化・公衆衛生の問題点について理解する。 人口動態の5事象、平均余命とはなにか説明できる。
11	試験	試験
12	試験解説	試験の解答および解説

科目名 【英】	東洋医学概論② Outline of Oriental Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単位	3
学年	2年	学期	1.2学期	曜日	月曜日	時限	3限

担当教員	副田 恵子	実務者経験	1999年4月～現在まで鍼灸院を開業中 鍼灸院及び往診にて鍼灸施術をおこなう
------	-------	-------	---

学習内容	1年生で学んだ東洋医学概論の復習を取り入れ基礎知識を固めながら、続きP150第2章第3節～P311第5章第3節までの応用を理解し経絡経穴の分野を絡めながら深める。
到達目標	東洋医学の理解を深め、楽しみながら臨床や日常生活にも生かせるようにする。 はり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	重要ポイントの復習が必要。毎回の小テスト対策が重要。
使用教材	教科書「東洋医学概論」（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備考	副教材として経絡経穴概論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	毎授業に小テストを実施。期末試験70%+小テスト30%で評価する。
------	-----------------------------------

授業計画【内容・目標】		
1	1年時の復習	1年時で学んだ生体物質、蔵象学説の理解の確認。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
2	経絡	経絡の概念・機能・構成・病理 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
3	病因病機	外感・内傷・その他の病因 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
4	病因病機	病機 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
5	陰陽学説	陰陽の相互関係 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
6	五行学説	五行の関係 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
7	五行学説	五行学説の運用 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
8	四診	望診 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
9	四診	聞診 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
10	四診	問診 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
11	試験	試験
12	1学期の復習	1年～1学期までの復習と前期試験の解説 80%の内容理解到達を目標とする。

授業計画【内容・目標】		
1	1年時～1学期の復習	1年時～1学期で学ん理解の確認。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
2	四診	その他の問診 身体症状など 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
3	四診	疼痛 女性の月経など 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
4	四診	切診 反応や腹診など 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
5	四診	切経 脈診 四診合参 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
6	弁証論治	八綱弁証 気血津液弁証 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
7	弁証論治	臓腑弁証 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
8	弁証論治	六経弁証 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
9	弁証論治	治則 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
10	弁証論治	治法 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
11	試験	試験
12	2学期の復習	1年～2学期までの復習と前期試験の解説 80%の内容理解到達を目標とする。

## 履修上の注意

1. 診断学には1年次の東洋医学概論の内容の理解が必要となるので、必ず復習をして下さい。
2. 欠席した場合、次の授業までに必ず資料を取りに来て下さい。
3. 単元終了時に小テストを行う予定です。成績に反映されますので欠席は避けて下さい。

科目名 【英】	経絡経穴概論② Outline of the Meridians and Acupuncture Point			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単位	1
学年	2年	学期	1学期	曜日	金曜日	時限	1限

担当教員	駒井 知佳子	実務者経験	2006年4月～2009年2月鍼灸専門学校常勤講師。 2009年4月～2014年6月不妊治療専門病院にて受胎鍼担当。 2014年4月桃の花針灸院開院、現在に至る。
------	--------	-------	---

学習内容	経絡と経穴の特徴を学び、経穴の場所や意義を学ぶ。
到達目標	取穴部位の習得（正確に取穴ができる）および治療穴として選穴できるようになる。 はり師きゅう師国家試験の出題される問題を理解し正確な解答を選択できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】新版 経絡経穴概論
留意点 備考	1. 講義と取穴実技を行う。 実技では取穴しやすい服装を用意すること。お互いに尊重しあって行うこと。 2. 出席は自分で管理すること。

成績評価	本試験60% 平常点40%。平常点は授業中に行う小テストで評価する。
------	------------------------------------

授業計画【内容・目標】		
1	足少陽胆経胆経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
2	足少陽胆経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
3	足少陽胆経③	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
4	足厥陰肝経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
5	足厥陰肝経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
6	奇穴①	経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
7	奇穴②	経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
8	取穴テスト	範囲 足少陽胆経、足厥陰肝経
9	奇経	奇経八脈の流注の概要、取穴実技
10	経絡経穴学と現代医学	教科書p232～
11	試験	試験
12	テスト返却	解答と解説

科目名 【英】	はりきゅう理論② Scientific Foundation of Acupuncture			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単位	3
学年	2年	学期	1.2学期	曜日	火曜日	時限	1限

担当教員	後藤 卓	実務者経験	2001年4月～2003年3月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	------	-------	--

学習内容	はり術、きゅう術のリスクとそれに対するリスク管理の方法を学ぶとともに、鍼灸治療の科学的な効果について学ぶ
到達目標	鍼灸治療の治療効果について現代医学的な実験やデータに基づく理論の習得。 鍼灸の治療効果に関連のある学説について学ぶ。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要
使用教材	【教科書】はりきゅう理論 【配布資料】あり
留意点 備考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講すること

成績評価	各学期に3回小テストを実施。期末試験70%+小テスト20%+出席点10%で評価する。
------	--

授業計画【内容・目標】		
1	第8章 リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リスク管理の概要【インフォームドコンセントなど】</li> <li>■ 鍼療法の過誤【気胸・折鍼・皮膚反応】について</li> </ul>
2	第8章 リスク管理	■ 鍼療法の過誤【出血内出血・抜鍼困難・脳貧血・遠感覚】
3	第8章 リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 灸療法の過誤【灸痕の化膿・灸あたり】について</li> <li>■ 感染症対策の概要について</li> <li>■ 消毒レベル【滅菌・消毒・洗浄】について</li> </ul>
4	第8章 リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 手指消毒【手指洗浄・手指消毒法】について</li> <li>■ 器具の消毒方法【オートクレーブなど】</li> <li>■ 器具の保管について</li> </ul>
5	第8章 リスク管理	■ 鍼治療による感染について
6	第8章 リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リスク管理の概要【インフォームドコンセントなど】</li> <li>■ 鍼療法の過誤【気胸・折鍼・皮膚反応】について</li> </ul>
7	鍼灸治効の基礎①	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 痛みの種類</li> <li>■ 内因性発痛物質の種類 ■ 痛覚投射部位の概要</li> </ul>
8	鍼灸治効の基礎②	■ 熱痛の発生と特徴 ■ 関連痛の概要
9	鍼灸治効の基礎③	■ 鍼灸刺激と反射【伸張反射・逃避反射のメカニズム】
10	復習・まとめ	定期試験前にこれまでの学習内容のまとめと復習
11	試験	試験
12	復習・まとめ	定期試験の解答・解説・まとめ



授業計画【内容・目標】		
1	鍼灸治効の基礎④	■ 鍼灸刺激と反射 〔自律神経反射・ヘッド帯・マッケンジー帯〕
2	鍼灸治効の基礎⑤	■ 鍼灸刺激と体性自律反射について ■ 軸索反射のメカニズム ■ 鍼鎮痛〔鍼麻酔〕
3	鍼灸治効の基礎⑤	■ 軸索反射のメカニズム ■ 鍼鎮痛〔鍼麻酔〕
4	鍼灸治効の基礎⑥	■ 鍼鎮痛〔内因性オピオイド・オピオイド拮抗物質・下行性痛覚抑制系〕
5	鍼灸療法の一般治効理論①	■ 鍼鎮痛〔ゲートコントロール説〕 ■ 鍼灸施術部位の反応 ■ 鍼灸施術の治療的作用について
6	鍼灸療法の一般治効理論②	■ 体性自律反射による鍼の効果 〔鍼刺激による筋血流に対する作用・内臓に対する作用〕 ■ ポリモーダル受容器の特徴
7	鍼灸療法の一般治効理論③	■ 灸療法と炎症 ■ 鍼灸治療による生体防御機構に及ぼす影響
8	関連学説①	■ サイバネティックスの学説 ■ 内部環境の恒常性 ■ ホメオスターシス、緊急反応
9	関連学説②	■ ストレス学説 ■ レイリー現象 ■ 圧発汗反射
10	復習・まとめ	定期試験前にこれまでの学習内容のまとめと復習
11	試験	試験
12	復習・まとめ	定期試験の解答・解説・まとめ

科目名 【英】	東洋医学臨床論① Clinical Oriental Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	76	単位	5
学年	2年	学期	通年	曜日	1学期：月曜日 2,3学期：水曜日	時限	1,2学期：2限 3学期1限

担当教員	松本 栞	実務者経験	2013年3月～2014年9月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸治療を担当
------	------	-------	-------------------------------------

学習内容	症候・疾患に対して現代医学的・東洋医学的観点からの病態生理、治療方法、施術の適応判断を学ぶ。
到達目標	臨床において現代医学的・東洋医学的両方の観点から症候・疾患を分析し、治療方法を考える力を身につける。 国家試験合格に必要な知識を身につける。

準備学習 時間外学習	東洋医学的観点からの診断において、東洋医学概論の基礎知識の復習が必要となる。 現代医学的観点からの診断において、臨床医学各論、臨床医学総論の復習・関連付けが必要となる。
使用教材	教科書『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』（東洋療法学校協会編） 配布資料・B5ファイル
留意点 備考	特になし

成績評価	各学期に小テストを実施、学期末試験70%+小テスト30%で評価する。
------	------------------------------------

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	治療総論	【現代医学的】治療原則・治療計画 【東洋医学的】治療原理・治療原則・選穴配穴原則
2	頭痛	現代医学的頭痛の分類 治療法 東洋医学的頭痛の鑑別 弁証
3	顔面痛と歯痛	現代医学的顔面痛の鑑別 適応疾患 東洋医学的弁証 症状～治療方針
4	顔面麻痺	現代医学的鑑別・分類 東洋医学的分類・鑑別・治療方針
5	眼精疲労 鼻閉 鼻汁	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証
6	めまい 耳鳴り 難聴	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
7	脱毛	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
8	咳嗽 喘息	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
9	胸痛 腹痛	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
10	悪心 嘔吐	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
11	試験	試験
12	試験ふりかえり	試験解説

2学期 授業計画【内容・目標】		
1	便秘 下痢①	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
2	便秘 下痢②	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
3	月経異常①	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
4	月経異常②	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
5	排尿障害①	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
6	排尿障害②	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
7	勃起障害	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
8	肩こり 頸肩腕痛	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
9	肩関節痛 上肢痛①	現代医学的考え方 適応疾患 腱板炎・上腕二頭筋長頭腱炎などの解説 適応疾患：胸郭出口症候群、絞扼神経障害 症状、所見、治療方針、処方例
10	肩関節痛 上肢痛②	現代医学的考え方 適応疾患 腱板炎・上腕二頭筋長頭腱炎などの解説 適応疾患：胸郭出口症候群、絞扼神経障害 症状、所見、治療方針、処方例
11	試験	試験
12	試験ふりかえり	試験解説

3学期 授業計画【内容・目標】		
1	肩関節痛 上肢痛	現代医学的考え方 適応疾患 腱板炎・上腕二頭筋長頭腱炎 胸郭出口症候群等 症状、所見、治療方針、処方例
2	腰下肢痛①	現代医学的考え方・適応疾患 筋筋膜性腰痛、坐骨神経痛、梨状筋症候群など
3	腰下肢痛②	現代医学的考え方・適応疾患 筋筋膜性腰痛、坐骨神経痛、梨状筋症候群など
4	運動麻痺①	絞扼神経障害 病態、症状、所見、治療方針など
5	運動麻痺②	絞扼神経障害 病態、症状、所見、治療方針など
6	運動麻痺③	絞扼神経障害 病態、症状、所見、治療方針など
7	高血圧 低血圧	現代医学的考え方 東洋医学的考え方：分類・弁証など
8	不眠	現代医学的考え方 東洋医学的考え方：分類・弁証など
9	疲労 倦怠	現代医学的考え方 東洋医学的考え方：分類・弁証など
10	食欲不振 肥満	現代医学的考え方 東洋医学的考え方：分類・弁証など
11	試験	試験
12	発疹 小児の症状	現代医学的考え方 東洋医学的考え方：分類・弁証など

科目名 【英】	東洋医学臨床論② Clinical Oriental Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	2年	学 期	2.3学期	曜 日	火曜日	時 限	2限

担当教員	藤田 和樹	実務者経験	2012年～2015年 整骨院勤務 治療補助など担当 2009年～高校ラグビー部トレーナー兼同 AT業務全般担当 2015年～教員 講義など担当
------	-------	-------	--

学習内容	徒手検査などの検査の施行、検査値について学習する。
到達目標	疾患の判断をおこない適切な徒手検査が行うことができる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	ずっと使える！鍼灸臨床BOOK
留意点 備 考	

成績評価	平常点：30%【小テスト：10点満点】 本試験：70%【筆記試験：100点満点】
------	--

2学期 授業計画【内容・目標】		
1	血圧	血圧測定 血圧測定の実施に必要な事項を列挙できる
2	血圧	血圧のメカニズム 血圧にに必要な構造、機能を説明できる
3	血圧	高血圧 高血圧をきたす疾患を列挙できる
4	反射	反射弓 反射弓について説明できる
5	反射	深部反射以外の反射 深部反射以外の反射の名称を列挙できる
6	反射	反射の異常 反射の異常がおきる疾患を列挙できる
7	関節可動域	関節可動域 測定方法を説明できる
8	関節可動域	上肢の可動域測定
9	関節可動域	下肢の可動域測定
10	各種検査	上記検査以外の検査 血液検査や腫瘍マーカーなどの異常値を説明できる
11	試験	試験
12		

3学期 授業計画【内容・目標】		
1	実技	血圧・反射・関節可動域 実技
2	実技	頸部・胸郭出口部の鑑別検査
3	実技	肩関節の鑑別検査
4	実技	上肢(肘関節・手関節)の鑑別検査 今までのおさらい
5	実技	腰臀部の鑑別検査
6	実技	膝関節の鑑別検査
7	実技	主要関節の関節可動域検査
8	実技	主要な部位の筋力検査(MMT)
9	実技	神経疾患の検査
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

科目名 【英】	はりきゅう実技⑤ 【現代診断治療学】 Practice of Acupuncture and Moxbustion			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	2年	学 期	通年	曜 日	木曜日	時 限	1限

担当教員	清藤 直人	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	暗記と共に、正しく素早く取穴ができるように解剖学的形態を理解する。
到達目標	① 主に整形外科的疾患に対し、構造機能的理解と診察診断法の修得 ② 現代医学的EBMに基づく施鍼技術の修得

準備学習 時間外学習	
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	本試験60% 出席点40%
------	---------------

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	鍼灸臨床と現代医学	診察・治療を行う上で必要な知識（普通教室で行う）
2	基礎実技①	技術の確認、体表観察能力検定
3	基礎実技②	現代的・東洋的治療の相違点を実技で確認
4	頭痛の診察・検査・治療①	頭痛に対する局所治療（使用鍼：寸3－2番）
5	頭痛の診察・検査・治療②	頭痛に対する遠隔療法（使用鍼：寸3－1番）
6	頸部疾患の診察・検査・治療①	頸椎症に対する低周波通電療法（使用鍼：寸3－5番）
7	頸部疾患の診察・検査・治療②	頸椎症に対する遠隔療法（使用鍼：寸3－1番）
8	頸部疾患の診察・検査・治療③	胸郭出口症候群（使用鍼：寸3－1番）
9	1学期復習	振り返り
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

2学期 授業計画【内容・目標】		
1	肩関節の診察・検査・治療①	肩こり（使用鍼：寸3－2番）
2	肩関節の診察・検査・治療②	五十肩（使用鍼：寸3－2番）
3	肩関節の診察・検査・治療③	腱板炎（使用鍼：寸3－3番）
4	上肢疾患の診察・検査・治療	上腕二頭筋長頭腱炎（使用鍼：寸3－2番）
5	上肢末梢神経障害の診察・検査・治療	肘部管・手根管・ギヨン管症候群（使用鍼：1寸－2番）
6	腰部の診察・検査・治療①	筋筋膜性腰痛（使用鍼：寸6－3番）
7	腰部の診察・検査・治療②	椎間関節腰痛、腰部脊柱管狭窄症（使用鍼：寸6－3番）
8	腰部の診察・検査・治療③	腰椎椎間板ヘルニア（使用鍼：寸3－2番）
9	2学期復習	振り返り
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

3学期 授業計画【内容・目標】		
1	腰下肢部の診察・検査・治療①	坐骨神経痛（使用鍼：寸3 or 6－5番）低周波通電療法
2	腰下肢部の診察・検査・治療②	仙腸関節、股関節疾患（使用鍼：寸3－1 or 2番）
3	膝疾患の診察・検査・治療①	変形性膝関節症（使用鍼：寸6－5番）灸頭鍼（紙巻艾）
4	下肢の診察・検査・治療	コンパートメント、アキレス腱炎（使用鍼：寸3 or 6－5番）低周波通電療法
5	下肢スポーツ障害	オスグッド、ランナー膝、シンスプリント（使用鍼：寸3－2番）
6	疾患別リクエスト①	要望の多い疾患に応え、治療法を伝授する。
7	疾患別リクエスト②	要望の多い疾患に応え、治療法を伝授する
8	疾患別リクエスト③	要望の多い疾患に応え、治療法を伝授する
9	3学期復習	
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

科目名 【英】	はりきゅう実技⑥ 【中医診断治療学Ⅰ】 Practice of Acupuncture and Moxbustion			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単位	2
学年	2年	学期	通年	曜日	火曜日	時限	3限

担当教員	一井 綾乃	実務者経験	1996年4月～鍼灸院所属、 1996年7月～2013年3月大阪医大付属病院麻酔科ペインクリニック所 属、2009年4月～教員
------	-------	-------	---

学習内容	東洋医学的な観点からの診断学・治療学を学ぶ。
到達目標	「舌診」「脈診」「腹診」の基本技術を身につけながら、主要症候に対して、中医学に基づいた観点からの鍼灸治療を行えるようにする。

準備学習 時間外学習	東洋医学概論、経穴学を復習する。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	基本的には鍼は1寸3分の1番鍼、2番鍼、3番鍼を使用する。

成績評価	毎時間片手挿管、紙上施灸を実施。それを平常点とし20～30%＋期末試験70～80%で評価する。
------	---

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	1年次の復習、2年次終了時までの到達目標を把握する。
2	四診1	四診とは何かを学習し、舌診のやり方を理解する。
3	四診2	舌診を理解し、診ることができる。
4	四診3	脈診と腹診を理解し、診ることができる。
5	診断1	陰陽の虚証、実証の症候を診ることができる。
6	診断2	気の虚証、実証の症候を診ることができる。
7	診断3	血の虚証、実証の症候を診ることができる。
8	診断4	津液の虚証、実証の症候と精の虚証を診ることができる。
9	まとめ	試験の内容を理解し、練習する。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	振り返り	1学期の内容を理解し、復習する。



2学期 授業計画【内容・目標】		
1	診断1	肝の病証に対して診断を下し、治療することができる。
2	診断2	心の病証に対して診断を下し、治療することができる。
3	診断3	脾の病証に対して診断を下し、治療することができる。
4	診断4	肺の病証に対して診断を下し、治療することができる。
5	診断5	腎の病証に対して診断を下し、治療することができる。
6	診断6	肝の病証に対して診断を下し、治療することができる。
7	診断7	心の病証に対して診断を下し、治療することができる。
8	診断8	脾の病証に対して診断を下し、治療することができる。
9	まとめ	試験の内容を理解し、練習する。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	振り返り	2学期の内容を理解し、復習する。

3学期 授業計画【内容・目標】		
1	診断1	肺の病証に対して診断を下し、治療することができる。
2	診断2	腎の病証に対して診断を下し、治療することができる。
3	診断3	肝の病証に対して診断を下し、治療することができる。
4	診断4	心の病証に対して診断を下し、治療することができる。
5	診断5	脾の病証に対して診断を下し、治療することができる。
6	診断6	肺の病証に対して診断を下し、治療することができる。
7	診断7	腎の病証に対して診断を下し、治療することができる。
8	診断8	六腑の病証に対して診断を下し、治療することができる。
9	まとめ	試験の内容を理解し、練習する。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	振り返り	3学期の内容を理解し、復習する。

科目名 【英】	はりきゅう実技⑦ 【臨床きゅう実技】 Practice of Acupuncture and Moxbustion			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単位	2
学年	2年	学期	通年	曜日	1学期：木曜日 2.3学期：金曜日	時限	2限

1学期 担当教員	酒井 美登子	1学期 実務者経験	開業9年6か月、整形外科リハビリ室2年・出張2年・薬剤師勤務7年
2.3学期 担当教員	丸茂 美保子	2.3学期 実務者経験	1992年～2004年 鍼灸院や整形外科に所属 2004年～2014年 教員養成・専門学校専任教員 2014年開業

1学期 学習内容	臨床でよく出会う疾患に対して鍼灸適応か不適応かを見分け、東洋医学と西洋医学の両面からのアプローチをしていく。疾患ごとに病態を把握して、治療穴の選穴を学び、実際にその穴に鍼灸実技を行う。
2.3学期 学習内容	身体部位別刺鍼技術の習得（硬結部位・虚実部位）またその部位にある経穴の穴性を学ぶ。臨床実習に向け、問診・検討・処方をグループで行い、施術し結果を確認する。
1学期 到達目標	各疾患の病態を把握したうえで、患者様のお身体にどのようなアプローチが出来るか臨床現場で困らないようにする。
2.3学期 到達目標	身体の状態に合わせた刺鍼ができるようにする。また臨床実習に向けて各自で診断・処方が出来るようにする。

準備学習 時間外学習	東洋医学臨床論（はりきゅう編）に目を通しておく。
使用教材	【教科書】東洋医学臨床論（はりきゅう編）、滋慶共通テキスト、鍼灸マニュアル 【プリント】各回20～30分程度プリントで学習する。
留意点 備考	授業の始めに灸（5分間）と片手挿管（1分×3回）を交互に行う。

1学期 成績評価	本試験 80点 平常点 20点
2.3学期 成績評価	実技試験70点 平常点・授業への積極的な参加（グループワーク）30点

授業計画【内容・目標】		
1	東洋医学臨床論 I	腰痛・腰下肢痛
2	II	頸・肩部のこり・痛み
3	III	膝痛・運動麻痺
4	IV	月経異常・排尿障害・ED
5	V	高血圧・低血圧
6	VI	特別講義 小児はりの実際
7	VII	悪心と嘔吐・便秘・下痢
8	VIII	食欲不振・肥満
9	IX	発熱・冷え・のぼせ
10	試験	試験
11	試験	試験
12	総括	試験の講評、今後の課題

2学期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価についての説明、施術力の確認
2	身体観察刺鍼	施術部位の状態を確認し、症状のある部位への施術 経穴の穴性を学ぶ
3	身体観察刺鍼	施術部位の状態を確認し、症状のある部位への施術 経穴の穴性を学ぶ
4	身体観察刺鍼	施術部位の状態を確認し、症状のある部位への施術 経穴の穴性を学ぶ
5	身体観察刺鍼	施術部位の状態を確認し、症状のある部位への施術 経穴の穴性を学ぶ
6	身体観察刺鍼	施術部位の状態を確認し、症状のある部位への施術 経穴の穴性を学ぶ
7	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
8	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
9		試験前 まとめ
10	試験	試験
11	試験	試験
12		試験後 まとめ 試験フィードバック

3学期 授業計画【内容・目標】		
1	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
2	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
3	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
4	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
5	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
6	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
7	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
8	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
9		試験前 まとめ
10	試験	試験
11	試験	試験
12		試験後 まとめ 試験フィードバック

科目名 【英】	はりきゅう実技⑧ 【特殊鍼法Ⅰ】 Practice of Acupuncture and Moxbustion			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	2
学 年	2年	学 期	通年	曜 日	1学期：金曜日 2学期：木曜日 3学期：月曜日	時 限	1学期：3限 2学期：2限 3学期：3限

担当教員	川内 良典	実務者経験	病院の物療科、鍼灸院に所属した後、開業。 現在に至り、鍼灸施術をおこなう。
担当教員	佐々木 友子	実務者経験	
担当教員	田邊 健三	実務者経験	

学習内容	先哲が臨床でよく使う経穴の主治、取穴、刺鍼法、施灸法を学ぶ。 古代九鍼（接触鍼、摩擦鍼）、十二刺を学ぶ。
到達目標	頻用穴を取穴し、安全に且つスムーズに刺鍼、施灸ができる。 古代九鍼、十二刺を覚え、臨床で応用できる。

準備学習 時間外学習	経穴の取穴部位の学習。刺鍼練習台等で刺鍼練習、紙上施灸により基本技術を繰り返す。
使用教材	配布プリント、経絡経穴学の教科書 ディスプレイ鍼、小児鍼セット、審美六鍼、もぐさ、灸点紙
留意点 備 考	学校で決められたこと（容姿、準備、片付けなど）を守る。 実技は危険を伴うことがあるので、私語を慎み、説明をよく聞き、慎重に行う。

成績評価	本試験100%で評価する。
------	---------------

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーショ ン、 『鍼論』より実技	授業概要、諸注意。手足の頻用経穴の取穴及び刺鍼・施灸法 手足の重要穴を取穴し、安全に刺鍼、施灸ができる。
2	『鍼論』より実技	腹部の取穴及び刺鍼・施灸法 腹部の重要穴を取穴し、安全に刺鍼、施灸ができる。
3	『鍼論』より実技	背部の取穴及び刺鍼・施灸法 内臓の部位を確認し、背部灸穴を取穴し、安全に刺鍼、施灸ができる。
4	古代九鍼	古代九鍼の概要。鍔鍼の解説、実技指導 鍔鍼の持ち方、押さえ方を把握し、臨床で使える。
5	古代九鍼	鍔鍼の解説、実技指導 鍔鍼の持ち方、摩り方を把握し、臨床で使える。
6	古代九鍼	員鍼の解説、実技指導 員鍼の持ち方、摩り方を把握し、臨床で使える。
7	十二刺	十二刺概要。偶刺、短刺の解説、実技指導 偶刺、短刺を臨床で応用できる。
8	十二刺	揚刺、直鍼刺、浮刺の解説、実技指導 揚刺、直鍼刺、浮刺を臨床で応用できる。
9	十二刺	恢刺、斉刺、傍鍼刺の解説、実技指導 恢刺、斉刺、傍鍼刺を臨床で応用できる。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	今までの実技の総まとめ 試験で気づいたことを中心に復習し、癖、間違いを正す。

2学期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	治療の実際
2	眼精疲労の治療	弁証、治療法、実技指導
3	便秘の治療	弁証、治療法、実技指導
4	眩暈の治療	弁証、治療法、実技指導
5	肩こりの治療	弁証、治療法、実技指導
6	不眠の治療	弁証、治療法、実技指導
7	温灸	様々な治療について、実技指導
8	月経不調の治療	弁証、治療法、実技指導
9	月経困難症の治療	弁証、治療法、実技指導
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

3学期 授業計画【内容・目標】		
1	特殊治療の概要	特殊治療法の種類および意義と活用法
2	赤羽氏法の実技①	赤羽氏法の概要、測定の仕方、カルテの見方 皮内鍼について
3	赤羽氏法の実技②	皮内鍼の扱い方、ピンセットの使い方、皮内鍼の刺入方法 調整の仕方
4	赤羽氏法の実技③	皮内鍼の刺入法の確認と測定から皮内鍼刺入までの流れ 局所的な使用法
5	良導絡治療の実技①	良導絡治療の概要と皮膚通電抵抗と自律神経の関係 良導絡測定の測定部位と説明
6	良導絡治療の実技②	ノイロメーターの構造とカルテの説明および記入方法 生理的範囲の求め方、測定から記入まで
7	良導絡治療の実技③	異常良導絡および症候群の求め方 興奮・抑制点の求め方と測定から興奮・抑制点と刺激の仕方
8	良導絡治療の実技④	測定から調整点までの流れ。良導絡治療における刺激の種類。反応良導点治療の仕方
9	パルス治療の実技	パルス治療の変遷。波形・極性について 通電時間と刺激量とヘルツ数による刺激量と疾患との関係。パルスと筋攣縮の関係。肩井・曲池・承筋へのパルス
10	試験	試験
11	試験	試験
12	パルス治療の実技	パルス治療の変遷。波形・極性について 通電時間と刺激量とヘルツ数による刺激量と疾患との関係。パルスと筋攣縮の関係。肩井・曲池・承筋へのパルス